

創立144年の本校の伝統と校風を受け継ぎ、未来に生きる子どもたちのために、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という教育理念のもと、すべての子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育てなければならない。

今の日本社会は、急速なグローバル化や人工知能の飛躍的な進化など、社会の加速度的な変化や技術革新により、将来の予測困難な時代を迎えている。このような時代を生きる子どもたちには、広い視野と豊かな感性をもち、人権尊重の精神を基盤として、相手を思いやり、共に助け合い、様々な人々と連携・協働しながら、課題を解決する力を育成していかなければならない。

子どもが自ら主体的に学ぶ姿を思い描き、学びに向かう力・全体を俯瞰する力・他者と協働する力を身に付け、課題を発見・解決する力をもてるようにする。そして、子どもたちが自分自身の力で未来を切り拓いていけるよう、教職員が一丸となって取組を進めていく。

「信頼される学校」をつくっていくために、新学習指導要領の内容を十分に理解し、その実現に向けて日々努力を続け、学校教育の充実を図っていくことが重要である。そのために、教職員一人一人の意識改革や意欲の高揚とともに同僚性を高め、「すべては待鳳の子どものために」真摯に教育実践に取り組む。

◇ 教育理念

- 1 すべての教育活動を通して、**人権尊重・人権尊重の精神**の高揚を図り、人間愛に満たされた情操豊かな児童の育成をめざす。
- 2 児童の達成体験を重視し、**自己実現**のために「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高める児童の育成をめざす。
- 3 すべての教育活動において、意図的・計画的・継続的に道徳的な信条、判断力、実践力を培う指導を推進し、**豊かな心の育成**を図る。
- 4 児童の安全管理に万全を期すとともに、全教育課程を通して、体力の向上を図り、健康で安全な生活を営むために必要な能力・態度を育てる。また、「**学校は学びの場であり、安心して生活できる場**」であるように教育設備・教育環境の充実に努める。
- 5 カウンセリング・マインドを基盤として児童理解に努め、教師と児童との心のふれあいを通して、問題行動や事故の未然防止、**基本的生活習慣の形成**など、生徒指導の徹底を図る。
- 6 明確な目標設定、地域や児童の実態をふまえ、地域の教育資源の活用を考慮した指導計画の作成、学習環境・教材・教具の整備、指導課程における評価の充実等を通して、全ての教職員が**カリキュラム・マネジメント**の視点をもって実践を重ね、児童一人一人の確かな学習の成立を図る。
- 7 児童の力を最大限に伸ばす努力をする。常に**子どもに寄り添った指導**を行う。

- 8 教職員一人一人の特性と創意を生かし、特色ある学年・学級経営の推進に努めるとともに教職員相互の共通理解を図り、組織運営上の協力体制を確立する。
- 9 教職の専門性を高め、指導の向上を期するため、校内研究・研修の充実を図る。
- 10 家庭・地域社会・関係諸機関とのコミュニケーションを密にして、相互理解を深め、児童の健全育成のための協力体制を築く。

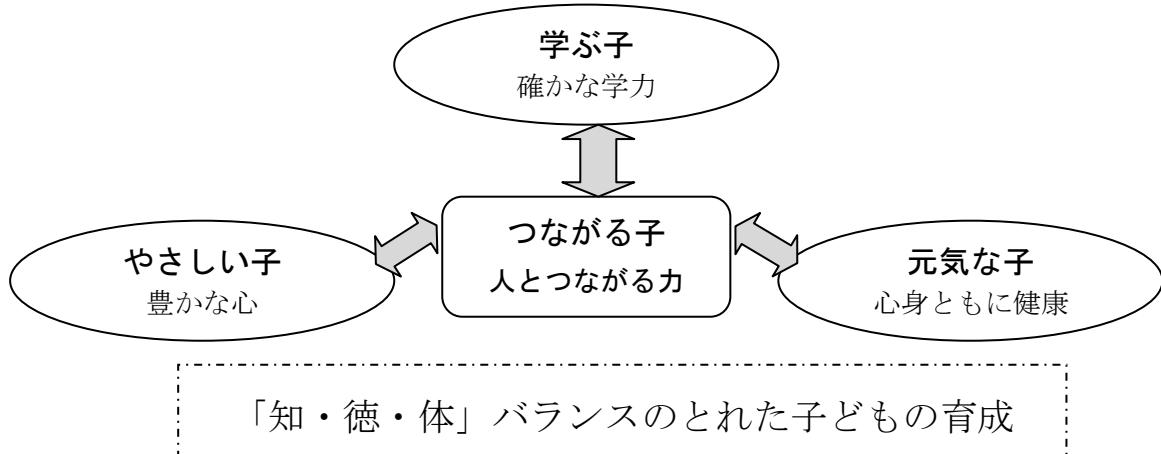
◇ 学校経営方針

すべての児童が輝き、全教職員がやりがいをもって、家庭・地域とともにつくる学校

◇ 学校教育目標

めあてをもち自ら考え行動し、自分のおもいを発信する子
 — 未来を切り拓き、自己実現をめざす教育の展開 —

◇ めざす子ども像



◇ 待鳳教育の基本指針

＜取組の重点＞

○ 確かな学力をつけるために

授業の工夫・改善を行い、すべての児童の学力を高める。

○ 豊かな心を育てるために

体験活動を通し、協力し高め合える「なかま」づくりを推進する。

○ 健やかな体を育てるために

生活を振り返り、自らの健康を大切にする教育を推進する。

＜具体的な教育実践＞

① 学年経営を基盤とする学級経営の充実

② 指導法の改善・工夫

- ・教材の開発、資料作成など「楽しくわかる授業」の充実
- ・ＩＣＴ機器やデジタルコンテンツ、「データベース」の有効活用

③ 授業の質的改善

- ・すべての教育活動を通して、「資質・能力の三つの柱」を偏りなく育成する。
 - 「何を理解しているか、何ができるか」：知識及び技能
 - 「理解していること・できることをどう使うか」：思考力、判断力、表現力等
 - 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」
 - ：学びに向かう力、人間性等
- ・目の前の子どもたちに「つけたい力は何か」を指導者自身が明確にもち、「何ができるようになるか」という視点から「どのように学ぶか」を見極め、「主体的・対話的で深い学び」の展開を追究する。その上で、自己のおもいを他者に明確に伝えられるように、表現方法を選んで発信できる姿をめざす。
- ・すべての教科等で「めあて・目標」「振り返り」の学習活動を取り入れる。
- ・目的を明確にした子ども同士の協働を取り入れながら、基礎基本の定着を図る。
- ・課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な学びを重視し、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」が実感できる授業を構築する。

④ 道徳教育の充実

- ・教育活動全体を通じて道徳教育を推進すると共に、道徳的価値の理解を深める指導の充実を図る。
- ・道徳と各教科等を関連させ、総合単元的な道徳を推進し、評価のあり方を追究する。

⑤ 体験活動を軸に、学ぶ喜びを味わえる教育活動の推進

- ・「自然・なかま・規律」をめあてにした自然体験活動を推進する。
- ・福祉・勤労体験の充実を図る。

⑥ 規範意識を培う

- ・「待鳳小学校のきまり」を基にした生活を確立する。

- ・人と人とのつながりを大切にし、きまりやルールを守ることの必要性を実感できる取組を推進する。

⑦ 個を見つめ、個に応じた教育の展開

- ・確かな児童理解
- ・食物アレルギーへの対応、個に応じた指導（個別の指導計画の活用）の展開

⑧ 課外学習の有効活用

- ・放課後や長期休業中の学習会の実施
- ・帯時間の活用：「朝読書」「チャレンジタイム」
- ・土曜学習の展開

⑨ 家庭学習の充実

- ・主体的な学びにつながる自学自習の習慣化を図る。
- ・学習を中心とした生活リズムの確立
- ・授業と連動させながら、予習・復習につながる自学自習の習慣をつける。
- ・家庭との連携・協力を図りながら、主体的に学ぶ意欲や態度を育む。

⑩ 社会の動きに敏感に、社会に対応できる人間づくり

- ・キャリア教育の推進（キャリア教育スタンダードの活用）
- ・スクールデントシティ学習、ものづくりの殿堂工房学習の取組

⑪ 地域を巻き込んだ教育の推進

- ・ゲストティーチャーの有効活用
- ・「学校運営協議会」との連携・協働を積極的に推進

